

プログラム

大会企画プログラム

第1日目 12月7日(土)

EL1 基礎セミナー1 14:10~15:20 第1会場(臨床第3講義室)

「苦痛緩和～呼吸困難への対応 医療とケアの両面から」

座長 小林孝一郎(富山赤十字病院 呼吸器外科・緩和治療センター)

大橋 純子(名古屋徳洲会病院 看護部)

講師 吉本 鉄介(JCHO 中京病院 緩和支援治療科)

村木 明美(済生会松阪総合病院 看護部)

EL2 基礎セミナー2 15:35~16:45 第1会場(臨床第3講義室)

「苦痛緩和～せん妄への対応 医療とケアの両面から」

座長 坂本 雅樹(名古屋徳洲会病院 外科・緩和ケア外科)

福永 稚子(三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)

講師 久保田陽介(名古屋市立大学 精神・認知・行動医学講座)

古川 陽介(名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター)

SL 特別講演 14:10~15:00 第2会場(臨床第2講義室)

座長 谷川 寛自(国立病院機構 三重中央医療センター 外科)

講師 大橋 洋平(愛知県厚生連海南病院 緩和ケア科)

「緩和ケア医、がんをしぶとく生きる」

SY1 シンポジウム1 15:15-16:45 第2会場(臨床第2講義室)

「緩和医療～知っておきたい最新のエビデンス」

座長 渡邊 紘章(小牧市民病院 緩和ケア科)

二村 昭彦(藤田医科大学七栗記念病院 薬剤課)

演者 長谷川貴昭(名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター)

浅井 泰行(小牧市民病院 緩和ケア科)

石原 正志(岐阜大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究推進センター)

今井 堅吾(聖隷三方原病院 ホスピス科)

総括コメンテーター 森田 達也(聖隷三方原病院 緩和支援治療科)

第2日目 12月8日(日)

PD1 パネルディスカッション1 9:00~10:20 第1会場(臨床第3講義室)

「早期からの緩和ケア～がん治療の変化の中で～」

座長 下山 理史(愛知県がんセンター 緩和ケアセンター/緩和ケア部)

室田かおる(名古屋第二赤十字病院 がん診療推進センター)

第2回日本緩和医療学会東海北陸支部学術大会
プログラム

PD1-1 がん薬物療法の変遷 安藤 正志（愛知県がんセンター 薬物療法部）

PD1-2 がん治療と緩和ケアの協働
梶浦 新也（富山大学大学院医学薬学研究部臨床腫瘍学講座）

PD1-3 がん治療継続を望む患者への意思決定支援～そのひとらしく生きることを支えるために
堀口 美穂（三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

PD2 パネルディスカッション2 10:30～12:00 第1会場（臨床第3講義室）

「エンドオブライフケアを考える～さまざまな現場の取り組みを通して～」

座長 松原 貴子（三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）
横江由理子（いきいき在宅クリニック）

PD2-1 がん患者と家族が地域のなかで療養場所を選択して生き抜くサポートをするための当院
緩和ケア病棟の取り組み
伊藤 浩明（県立多治見病院 緩和ケア内科）

PD2-2 在宅支援診療所、事業所、施設としての終末期へのかかわり
井上 登太（みえ呼吸嚥下リハビリクリニック NPO グリーンタウン呼吸嚥下研究グループ）

PD2-3 エンドオブライフ・ケアー小児神経芽腫患者・両親が望む療養生活を目指して～
帰山絵津子（金沢大学附属病院 看護部）

PD2-4 がん専門病院におけるエンドオブライフケア～最期まで主体的に生きるための相談支援
御牧 由子（静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談）

SY2 シンポジウム2 14:00～15:30 第1会場（臨床第3講義室）

「患者の『生きる』を支える～それぞれの職種の強みを活かす～」

座長 向井未年子（愛知県がんセンター）
澤井 美穂（公立学校共済組合東海中央病院）

SY2-1 AYA 世代患者の「生きる」を支えるケア～看護師の立場から～
苅谷 三月（岐阜大学医学部附属病院）

SY2-2 薬局薬剤師による在宅終末期医療の支援～金沢での取り組み～
小林 星太（とくひさ中央薬局）

SY2-3 緩和病棟におけるリハビリテーション 当院緩和病棟3年間の経験から
菊田 正寛（富山県厚生連高岡病院 リハビリテーション科）

SY2-4 患者の「生きる」を支える～就労支援におけるソーシャルワーカーの役割～
鈴木志保子（三重大学医学部附属病院 総合サポートセンター）

SY2-5 こどもの持つ力を支援する～チーム医療におけるCLSの担う役割～
山田 真弓（独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター 小児科/緩和ケアチーム）

共催セミナー

SES イブニングセミナー 12月7日(土) 17:00-18:00 第1会場(臨床第3講義室)
共催 ムンディファーマ株式会社/丸石製薬株式会社

座長 森田 達也(聖隷三方原病院 緩和支援診療科)

講師 林 章敏(聖路加国際病院 緩和ケア科)

「がん疼痛治療におけるタペンタドールの役割～今、求められる癌疼痛治療とは～」

SLS1 ランチョンセミナー1 12月8日(日) 12:15~13:15 第1会場(臨床第3講義室)
共催 株式会社ツムラ

座長 東口 高志(藤田医科大学 外科・緩和医療学講座)

講師 丸山 一男(三重大学大学院医学系研究科 麻酔集中治療学講座)

「便秘と漢方薬 ～効果のしくみ～」

SLS2 ランチョンセミナー2 12月8日(日) 12:15~13:15 第2会場(臨床第2講義室)
共催:塩野義製薬株式会社

座長 松原 貴子(三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)

講師 有賀 悦子(帝京大学 緩和医療学講座)

「あなたはオピオイドをどのように選択していますか? ～文献から見る鎮痛薬の特性～」

SSS スイーツセミナー 12月8日(日) 14:30-15:30 第2会場(臨床第2講義室)
共催 第一三共株式会社

座長 中瀬 一則(三重大学医学部附属病院 がんセンター)

講師 余宮きのみ(埼玉県立がんセンター 緩和ケア科)

「今、すぐ!役立つ がん疼痛治療 2つのポイント」

集いの広場 第3会場(臨床第1講義室)
12月7日(土) 14:00~17:00 12月8日(日) 9:00~16:30

書籍展示

企業展示

企画展示「がん患者の在宅療養生活をイメージする」

一般演題

一般演題（口演）1 9:00~10:10 第2会場（臨床第2講義室）

座長 村上 望（富山県厚生連高岡病院 緩和ケアセンター）
久山 幸恵（静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター）

- 01-1 緩和ケア病棟で認知症を見る看護師の困難感と対処方法
村岡 美幸（社会福祉法人恩賜財団済生会松阪総合病院 緩和ケア病棟）
- 01-2 当院緩和ケア病棟における看護師の実践能力に対する現状と今後の課題クリニカルラダーの導入を目指して
市川 慈（医療法人 尚豊会 みたき総合病院）
- 01-3 全室個室での終末期がん看護に対する看護師の思いと関わり
本田 かおり（加賀市医療センター）
- 01-4 神経難病患者への緩和ケアの導入-苦痛のスクリーニングを用いた取り組み-
石原 美名（三重大学医学部附属病院）
- 01-5 当院の STAS-J とがんリハビリテーション
富中 真悟（地方独立行政法人 三重県立総合医療センター）
- 01-6 術後急性期から自宅退院までの病期に応じた理学療法士の介入、支援について～限りある予後のなかで、自宅で最期を迎えることができた S 状結腸癌の一症例～
宮上 卓也（総合病院 中津川市民病院 リハビリテーション技術科）
- 01-7 つらさの包括的評価と栄養管理 no フレイル期から患者を支える
石田 聡子（名張市立病院）

一般演題（口演）2 10:30~11:40 第2会場（臨床第2講義室）

座長 廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）
杉下美保子（名古屋大学医学部附属病院 化学療法部）

- 02-1 がん終末期に胸水濾過濃縮再静注法(CART)の頻回実施を行い、在宅療養の継続および栄養状態の維持が可能であった2例
都築 則正（藤田医科大学 外科・緩和医療学講座）
- 02-2 アイスクリューム、清涼飲料水摂取が可能となった緩和的 PTEG の2例
桂 長門（藤田医科大学医学部外科・緩和医療学講座）
- 02-3 大腸癌肝転移に対し緩和的放射線治療を施行した2例
渡部 秀樹（地方独立行政法人 三重県立総合医療センター）
- 02-4 がん性腹膜炎による ADL 低下をみとめた緩和ケアチーム介入症例において、初回化学療法

第2回日本緩和医療学会東海北陸支部学術大会
プログラム

開始後に肺塞栓症をみとめた事例

太田 志摩（三重県厚生連松阪中央総合病院 麻酔科）

02-5 異なる転機を辿った癌性心膜炎の2例

位田 瑞貴（済生会松阪総合病院）

02-6 実存的苦痛がその他の苦痛の閾値を低下させ持続鎮静を施行するに至った1例

川上 恭平（静岡県立がんセンター 緩和医療科）

02-7 緩和ケアセンター研修を選択した初期臨床研修医におけるメサドン処方資格取得に関するアンケート

村上 望（厚生連高岡病院 緩和ケアセンター）

一般演題（口演）3 15：45～16：55 第1会場（臨床第3講義室）

座長 村井 美代（藤田医科大学病院 外科・緩和医療学講座）

辻川 真弓（三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻）

03-1 末期がん患者と家族に対する意思決定支援

濱岡 和弥（三重大学医学部附属病院 総合サポートセンター）

03-2 「終活」を希望する余命3ヶ月のがん患者への緩和ケアチームのかかわり

井上 智恵（尾鷲総合病院）

03-3 多職種連携により入院前からの患者の希望を入院中の看護につなげられた一例

早川 有花（医療法人名南会名南病院）

03-4 患者の望む支援者が寄り添い意思決定できた一例

中村 めぐみ（独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター）

03-5 その人らしい人生の最終段階を支える介護者への支援の可能性～自宅看取り後の家族のことばから～

森 あゆみ（キョーワ訪問看護リハビリステーション寄り添い屋中川店）

03-6 多職種連携研修ですすめる包括的なネットワークづくりへの取り組み

北森 祥子（名賀医師会 名張市在宅医療支援センター）

03-7 民生委員を活用した独居世帯の意思決定支援体制構築へ向けた予備的アンケート調査

渡邊 紘章（小牧市民病院 緩和ケア科）

一般演題（口演）4 15：45～16：55 第2会場（臨床第2講義室）

座長 佐藤 哲観（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

壁谷めぐみ（名古屋記念病院 薬剤部）

第2回日本緩和医療学会東海北陸支部学術大会
プログラム

- 04-1 外来通院中のがん患者に対する緩和ケアスタッフによるオピオイド導入支援の有用性
山本 泰大（小牧市民病院 薬局）
- 04-2 緩和ケア病棟薬剤師のあり方を考える
成尾 千晶（三重県厚生連鈴鹿中央総合病院 薬剤部）
- 04-3 中咽頭癌頸部郭清術後の頸背部痛に鍼灸を用いた一症例
寺田 憲弘（三重大学医学部附属病院 麻酔科）
- 04-4 2%リドカインに混注することでヒドロモルフォン持続皮下注のレスキュー注入疼痛が軽減できた1例
吉本 鉄介（JCHO 中京病院 緩和支援治療科）
- 04-5 膵がんの腹膜播種と悪性腹水における腹部膨満感と癌性疼痛に高用量のオピオイドにてコントロール困難であった一症例
日浅 厚則（同心会遠山病院 緩和ケアチーム）
- 04-6 下顎神経高周波熱凝固術が疼痛コントロールに有効であった舌癌の1例
杉山 陽子（岐阜大学医学部附属病院 麻酔科疼痛治療科）
- 04-7 オピオイド・フリーを可能とした局所進行膵癌に対する内臓神経ブロック～自動車運転を強く希望した患者に対する鎮痛方法として～
佐藤 哲観（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

一般演題（ポスター） 13:25～13:50 第3会場（臨床第1講義室）

- P-1 がん終末期症例におけるリンパ球-CRP比の予後予測能の検討
奥川 喜永（三重大学 消化管・小児外科）
- P-2 逝去時のケアとしての霊安室での焼香に関する職員の意識および実態調査
小林 孝一郎（富山赤十字病院 緩和治療センター）
- P-3 いのちについて考える機会を創出する市民活動団体「長久手いのちの学校」3年間の活動報告
伊佐治 知加子（社会福祉法人愛知たいようの杜 訪問看護ステーションふれあい）
- P-4 小児がんの子ども、がん患者の親をもつ子どもの支援の実践
彦田 栄和（がん哲学外来メディカルカフェどあらっこ）
- P-5 「緩和ケア患者の口腔問題と歯科介入の現状」
加藤 典子（愛知医科大学病院 緩和ケアチーム）
- P-6 新病院での緩和ケアチーム立ち上げを振り返って
岩田 友子（桑名市総合医療センター）
- P-7 急性期病棟におけるがん性疼痛看護認定看護師の役割と課題

第2回日本緩和医療学会東海北陸支部学術大会
プログラム

伊藤 裕子（医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院）

P-8 一般病棟における倫理カンファレンス後のケアの変化と今後の課題

高島 信世（順天堂大学医学部附属静岡病院）

P-9 緩和ケア病棟における倫理カンファレンスの実施について

澤井 美穂（公立学校共済組合東海中央病院）

P-10 末期心不全患者への関わり～非がん患者が多い病棟におけるトータルペインの共有とケアの協働の工夫について～

長谷川 真紀（三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

P-11 外来緩和ケアにおける保険薬局での「痛みのチェックシート」の導入と有用性評価

地引 勝（日本調剤三重大前薬局）

P-12 緩和ケア病棟における薬剤師の病棟業務実施への取り組み(第2報)～多職種からのアンケートによる評価～

三浦 愛美（一宮市立市民病院）

P-13 癌患者に対する薬薬連携～在宅療養支援診療所の薬剤師の役割～

佐々木 直子（磐田在宅医療クリニック）

P-14 呼吸困難感を伴う癌性疼痛に対してブプレノルフィンおよびヒドロモルフォン錠が有効であった1症例

須藤 宏文（株式会社トゥモファ こうなん薬局）

P-15 膵臓がん患者の訴える背部痛に対し鍼灸を行った1症例

向井 雄高（三重大学医学部附属病院 麻酔科）

P-16 退院後訪問および同行訪問によって、自宅へ帰ることができた終末期がん患者の1例

市川 夕子（藤田医科大学 七栗記念病院 看護部）

P-17 医療用ポンプの使用により在宅療養に移行できた症例-生活者としての患者を支える-

奥野 和美（特定医療法人同心会遠山病院）

P-18 痛みを抱える終末期がん患者への多職種介入

—痛みのコントロールで外泊が実現できた—1症例—

石井 亜季子（公益財団法人 伊豆保健医療センター）

P-19 緩和ケア病棟における退院に関わる意思決定支援

大橋 純子（名古屋徳洲会総合病院）

P-20 三重県内8病院を結んだ多職種緩和ケアテレビカンファレンスの取り組み

辻川 真弓（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻）